

研究タイトル:

英語教授法と第二言語習得理論



氏名:	鈴木 章子 / SUZUKI Noriko	E-mail:	suzuki@yonago-k.ac.jp
職名:	准教授	学位:	博士(教育学)
所属学会・協会:	全国高等専門学校英語教育学会、全国英語教育学会		
キーワード:	Content and Language Integrated Learning (CLIL)、ライティング、学習者の個人要因 英語資格試験		
技術相談 提供可能技術:	英語資格試験対策、英語プレゼンテーション指導		

研究内容: 英語教授法、英語学習者の心理的側面が学習に与える影響

英語教授法(特に内容言語統合型学習[CLIL]やライティング指導)の実践とその効果の検証を、量的・質的に行います。最近の社会傾向として、英語を使用言語とする教育機関や企業が増加しつつあります。そういった環境では、英語は学習する対象でありながらも、学習・仕事をする上でのツールという側面を強く持つようになります。CLIL では、英語だけでなく、内容の学習にも主眼が置かれるため、より学習者がツールとしての英語をインプットしアウトプットする機会が増え、結果的に英語力の伸長に寄与すると考えられています。本研究では、そういった言語使用環境に着目し、その中での英語力の伸長の程度や、言語の壁を乗り越えるためのストラテジーを検討します。

また、語学の学習において、学習成果には個人差が大きく関係してくることがわかっています。個人差を生み出す要素として、たとえば語学学習に対するモチベーション、学習の際に用いるストラテジー、外国語を話すときに不安になる気持ち、コミュニケーションを積極的にとろうとする態度、学習開始年齢などがあります。これらの要素が、学習者の語学力にどの程度関連してくるのかを研究のテーマとしています。

担当科目	英語総合Ⅱ, 英語演習, 英語総合演習
近年の業績 (研究・教育論文、特許含む)	・Suzuki, N. (2025). The effect of task modality on the production of language-related episodes and learning of form. <i>Language Awareness</i>, 1-24. ・Noriko, S. (2021). Effects of content-based instruction (CBI) on EFL secondary school learners' writing: Linguistic and functional aspects. <i>Journal of Immersion and Content-Based Language Education</i>. https://doi.org/10.1075/jicb.20006.suz ・Suzuki, N. (2019). Needs analysis for developing a theme-based language unit for students at the National Institute of Technology. <i>Bulletin of the Graduate School of Education of Waseda University. Separate Volume 26(2)</i>. 163-178. ・Suzuki, N. (2017). Foreign language speaking anxiety in the English-Medium Instruction (EMI) program in a Japanese university. <i>CACELE Bulletin</i>, 47. ・Suzuki, N. (2017). The Practice of In-class Writing Activities and Examination of the Writing Products in terms of Syntactic Complexity. <i>The Council of College English Teachers Research Reports</i>, 36. ・「Content Based Instruction (CBI)、Content and Language Integrated Learning (CLIL) の考えを工業高等専門学校低学年の授業に反映させる取り組み」『全国高等専門学校英語教育学会研究論集』第 35 号, 165-174. ・森和憲、鈴木章子、ジョンストン ロバート(2018)「機会翻訳機を利用して作成された自由英作文の分析」『全国高等専門学校英語教育学会研究論集』第 37 号, 31-39.